

くシヴァ神と目と目が合ったとき武器を手放し、その都は文学、音楽、舞踊の三つの文化で繁栄し都は平和になり人々は幸せになったという神話もあります。ナタラージャの踊りは あらゆる二面性を対立ではなく楽しいリズム(ひびきあい)で両極にあるものをセンタリングしてくれて心の安定へと導いてくれているように思います。



また、毎年2月(マーガ月)の月が欠けていく14日目の夜はMaha Shivaratry(マハー・シヴァラトリー)というシヴァ神を祭る日で、熱心な信者は絶食して眠らずにシヴァ神に祈りをささげながら夜を越します。夜中に讃歌を唄い続けるプーージャには功德があると言われています。

南インドにある多くのナタラージャを祀る寺院では舞踊のフェスティバルが夜遅くまで行なわれます。その中でも南インド・チタンバラムにある108種のポーズの浮き彫りがあることで有名なナタラージャ寺院のフェスティバルにはインド中から踊りの名手からこどもダンサー達まで集まり、熱気に溢れた3日間を繰り広げます。

この祭典に夕暮れから夕食の用意を持って家族(3世代の)が揃って続々と寺院に足を運ぶ姿があり、砂地の座席は見る見る埋め尽くされていきます。ナタラ

ージャの踊りには先にも触れましたように、人々の苦難を排除し力を与え守ってくださることや叡智を伝える神話を楽しいリズムとともに表しています。このバラタナーティヤムの祭を通して、その文化を祖父母や父母が子や孫へと代々伝えてきました。これからも古代の祝福の光は次世代へと繋がることと思います。

インドで最古を誇る南インド古典舞踊バラタナーティヤムは踊りの神と踊り手を繋ぐタテの光から、現代ではインド中いや、世界中にヨコへの光が広がっています。それは十字架のクロスのような絶妙なバランスや美しさ強さを保ち、これからますます安定した光となって、祝福のリズムに満ちた輝かしい未来につながっていくことを願って止みません。



南インドで人気のある8つの形をしたラクシュミー女神のポスター。富、幸福、母親の力、食、こども、知恵、仕事の力、成功、の女神を表す